

生活に欠かせない「水」

天理市立福住中学校 三年

植田 奈央

私の住んでいる山田町はとても小さな村です。周りを山々に囲まれ、山田町に住んでいる大半の人が家で農業をしているような村です。私の家でも農業をしていて、暮らしにも農業にも「水」は絶対に欠かせません。そんな私の家では、市の水と山の水をろ過したものを使っています。その山の水は、家の裏山にあるタンクにたまっています。

私が小学校低学年くらいの時です。ある日、私は朝起きて顔を洗おうとしましたが、蛇口をひねっても水が出てきません。

「お父さん。水出えへんで。どうなってるの。」

「多分、タンクに葉っぱかなんかつまったんじゃないかな。ちよつと見てくるわ。」

と言って父が見に行きました。その時は、タンクに葉っぱがつまっていただけで、父がき

れいに掃除してくれたので水が出ました。

でも一か月ぐらいたったある日、また山の水が出なくなりました。

「お父さん。また水出えへんで。」

「なんでやるなあ。また明日見てくるわ。」
帰ってきてすぐ父は祖母に言いました。

「タンクに葉っぱはつまってなかったけど、水が全然なかったわ。」

気になったので、後で父に聞いてみると、

「バケツ一杯分もない水しかタンクにたま

てなかった。」
と教えてくれました。その日は山の水が使えなかつたので、市の水だけを使いました。

私はなぜ水がなかつたのか気になったので祖母と父に聞いてみました。すると、祖母か

らも父からも同じ答えが返ってきました。
「多分、水使いすぎたんやろなあ。」

と。それを聞いて、確かに私も結構水を出しっぱなしにしたり無駄遣いをしていることがあったなと思いました。

このようなことに思い当たる人は、私以外にもたくさんいることでしょう。

「世界には今も水を求めてさまよう人々がいる」そんなことを聞いたことがあります。それを聞いた時は、「そんな人があるんや」

「日本はそんなんじゃないやなくてよかった」などと思うだけで「無駄遣いはやめよう」とは思いませんでした。でも今回のことがあって、少しづつ無駄遣いはやめようと思うようになりました。

「水は無限にはない」そう思うことが大切だと私は思います。でもそのことを忘れ、何も考えずに水を出しっぱなしにする人がいます。私のように。限られた水を一人一人が大切の使うことが大切だと私は思います。

前に祖母が言っていました。「山があるからこそ水を使えんねんから、そんな山を汚したらあかんで。」

と。私は祖母の言う通りだと思えます。森林があるからこそきれいな水を飲むことができ

ます。森林は水を浄化する働きを持っています。日本のように険しい山が多く、降水が季節的に大きく変動するところでは水を浄化する働きは極めて重要です。限りある大切な水を確保するためには、森林を私たちの手で守り、育てていく必要があります。でも最近、私の村でもゴミのポイ捨てが多くなり、大切な自然が汚れてきています。だから小中学生とその保護者で時々ゴミ拾いをして少しでも自然をきれいにしようとしています。それでもやはりゴミはなくなりません。

水の無駄遣いやポイ捨てをやめよう。最初はその思っても続けることはなかなか難しいかもしれませんが。でも、一人一人が意識することが日本でだけじゃなく世界の水や環境問題が大きく変わるでしょう。私はそれを願います。